

広報渉外部

5月に岡山市掲示板が平田ロバス停留所東角に新設されました。町内会総合掲示板としての役割が期待されます。

9月に「ふれあい新聞特別号区画整理で生まれ変わった田中野田」がこの地区の変貌を記録に留めるために保存版として発刊されました。

ふれあい新聞発行のための編集会議がその都度開催されました。発行日とその掲載内容の概要は

| 発行日 | 主な記事 |
|---------|---|
| 4月1日 | 12年度町内会の現状と方針及び予定行事、各会の新役員紹介 |
| 7月1日 | 御南学区の幼稚園保育園問題、野外掲示板の新設 |
| 10月1日 | 盛況に終了した田中野田夏祭り、御南学区民体育祭、星空サマーコンサート |
| 13年1月1日 | 会長年頭挨拶(特に役員半数を毎年改選する方式の決定について)、田中野田の区画整理の終結時期と締めくくりの手続きについて、年度活動の終了した体協報告 |

今後の課題、希望は

広報渉外部のなかで渉外、回覧、掲示板の管理等の仕事を分担することを、検討してはどうか。

ふれあい新聞に投書欄を設けてはどうか(町内会住民の積極的な情報交換、意見の場の提供を目的として)。

費用の増えることを考慮しなければならないが新聞を手に取りやすく、より読みやすくするために、印刷及び紙質を向上してはどうか。

新聞がますます増えるであろう町内会住民の情報を得、交換する場として利用し盛り上がることを希望します。

なお最後に、ふれあい新聞編集発行には、(8組)平尾さんのご尽力の大きいことを付記しておきます。

(吉崎 昭)

防犯防災部

当部では防犯灯(街路灯)、交通安全施設、消火施設等の点検、管理を主に行っております。昨年度は部会を開催し、防犯灯の新設(町内全体に設置されていますが、まだ必要と思われる箇所がある)、防火訓練の実施(消火器等による初期消火訓練)、地震・水害時の避難場所の設定(中学校ほか公共施設)、防火上危険な遊休地の雑草(枯草)の処理(該当者へ処理依頼)などの活動方針を検討致しました。本年度は昨年よりの課題である防犯灯の新設、防火訓練の実施等を行う予定です。また道路も整備され交通量が多くなり、事故が発生しやすい環境です。交通安全施設(信号機)の設置を、今後の課題にしたいと思っております。

明るく住みよい町であるよう、今後とも皆様のご協力をお願い致します。なお、防犯灯(街路灯)の点灯不良等修理が必要な場合には、各組の役員まで連絡してください。

(原 一郎)

平成13年度 子ども会及び育成会役員

子ども会育成会 会長 田中耕太郎

本年度、育成会会長を今井卓己さんより引き継ぎ、務めさせて頂くことになりました。皆様には平素より会の行事に多大なご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。子ども達が田中野田子ども会にいてよかったと言える1年にしたいと思っておりますので、ご支援の程よろしくお願ひします。本年度の役員をお知らせします。

| | | | |
|---------|----------------|----------------|-------------|
| 子ども会 会長 | 田中 宏樹 | | |
| 副会長 | 高橋 佑一朗 | 原 敦子 | 岩下 仁美 |
| 運営委員 | 加藤 渉 | 西浦 伸吾 | 二宮 彬裕 |
| | 佐和 佑太郎 | 光岡 利紘 | |
| 育成会 会長 | 田中 耕太郎 | | |
| 副会長 | 松本 彰二 | 松村 清 | 和氣 保夫 高橋 厚朗 |
| | 西村 誠治 | 二宮 公博 | 植田 裕治 |
| 地区理事 | 高橋 真澄 (生活指導部) | | |
| | 光岡 智子 (交通部) | 岩下 明美 (交通部) | |
| 地区副理事 | 加藤 恵 (生活指導部) | | |
| | 田中 暁美 (交通部) | 西浦 笑美子 (交通部) | |
| 会 計 | 佐和 順子 | | |
| 運営委員 | 原 美鈴 | 二宮 幸代 | |
| 顧 問 | 今井 卓己 | | |
| 監 査 | 西村 誠治 | | |
| 連絡協議会役員 | 松村 清 | 同事務局 | — |
| 交通安全母の会 | 原 美鈴 | 二宮 幸代 | 矢野 寿子 |
| スポーツ監督 | 和氣 保夫 (ソフトボール) | 松本 彰二 (ソフトボール) | |

虫のはなし(5)

奇妙な毒グモの夫婦

(8組) 平尾 重太郎

クモが好きだという人は少ない。クモのなかでも毒グモとなればなおさらである。たぶん記憶されている方もあろう、平成7年秋関西国際空港とその周辺で、熱帯や亜熱帯にいるセアカゴケグモという、毒グモが多数発見され大騒ぎになった。このクモは明らかに海外から侵入したもので、海外では毒グモに噛まれると、数日で死亡する場合もあるといわれているが、このクモの毒性は大したことはなく、幸いに人身事故はなかった。ところがごく最近(平成12/10/20)、米軍岩国基地で毒グモのクロゴケグモが数十匹見つかったと報道された。この毒グモは北米大陸の

南部に生息しており、日本では今回初めて確認されたもので、米軍の貨物にまぎれ込んで空輸され、侵入したようである。こちらは世界最強の猛毒を持ち、噛まれて3時間ほどすると激しい痛みがあり、毒は神経に作用し、けいれんや発汗、心拍の乱れなどが起る。子どもや高齢者など体力が弱いと、全身のショック症状が起きて重症に陥ることもあり、血清ができるまで北米ではたびたび死者がでたケースもあったという。

さて、「ノミの夫婦」という言葉の意味はご承知で

しょうが、ノミ以上に大きさに差があるのが毒グモである。右の写真はセアカゴケグモで大きいほうのメスは体長13^{mm}、小さいのはオスでメスの半分にも満たない4^{mm}である。こんな夫婦でどうして交尾がうまくゆくの、それは次のような次第となる。

このクモはオスとメスが直接交尾するわけではない。オスは特殊な器官をメスの腹に挿入して精子を渡し、メスはそれを体内の受精囊(じゅせいのかい)に一時しまっておき、あとでこれを使用する。オスは精子を渡すや否や、宙返りしてメスの口の中へ飛び込む(写真は飛び込み寸前の状態)。メスはそれを待っていたかのように即座に食べてしまう。あたかも食後のデザートのように。

しかし、オスのあのかぼそい体は、どうみてもおいしそうではない。ともかく、オスは彼女に全身を捧げて本望というべきか、自殺してあわれというべきか、人間さまは勝手に想像すればよい。なお、カマキリのなかにもこのような習性をもつものがある。

蛇足であるが、一般に虫の名前は体形や色、習性などから付けられる場合が多い。セアカゴケグモの名前の由来は、「背中に赤い斑紋」が、クロ…のほうは「全身が淡い黒色」であることによる。そして両虫とも名前のもう一つは、上記の行動の結末に由来する。ご推察を。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆
編集後記：このたび新聞の題字と紋様を一新しました。題字は会長和氣加太志さんの直筆で、これの地紋への組み込みはパソコンを用いて、広報渉外部の吉崎が作成しました。

今回最初の試みとして、この1年間各専門部の活動状況を報告していただきました。益々のご活躍を期待しております。今後、さらに紙面を刷新・充実させ、より一層読まれる新聞をめざしておりますので、皆さんの建設的なご意見と投稿をお願いします。投稿等をされる方は各組の役員に申し出てください。

